



平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業
推進校実施報告書

- 1 学校名 : 岩手県山田町立山田南小学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 1 月 26 日 (木)
- 3 対象 : 講演 1~6 年生 164 名
実技 6 年生 30 名
- 4 派遣オリンピック : 平瀬智行さん (サッカー シドニーオリンピック日本代表)
- 5 授業内容 : 講演・実技

2017 (平成 29) 年 1 月 26 日に岩手県山田町立山田南小学校にて、シドニーオリンピック (2000 年) のサッカー日本代表であり、現在はベガルタ仙台でアンバサダーとしてご活躍されている平瀬智行さんをお招きし、全学年児童 (164 名) を対象とした講演、ならびに 6 年生児童 (30 名) を対象としたサッカーの実技体験を行っていただきました。

平瀬さんがプロのサッカー選手になろうと思ったのは、小学校 4 年生の時にテレビでマラドーナ選手の活躍を見た時だったと言います。それからすぐに平瀬さんは、日本代表になるという目標と、そこに至るまでのステップを事細かにノートに書き出すと、そのノートをいつも見返していたそうです。また高校生のころは、辛い練習の日々の中、辞めてしまいたいと毎日のように思っていたそうですが、3 年間やりきれば J リーガーになれると信じ、逃げずに頑張るうちにノートに描いた自分の夢が現実になっていったと振り返りました。また、鹿島アントラーズに入団後、4 年間で 1 試合しか出ていない辛い日々が続く中でも、決して諦めず、時間外練習など人一倍努力を続けたそうです。転機が訪れたのは 1999 年、ほかの FW の選手の怪我などが重なり、はじめてスタメンとして試合に出ることになった際、ここがチャンスだと信じてプレーをし、結果的に 1 試合で 4 得点を挙げた時だったと言います。その試合をたまたま見に来ていた当時の日本代表のトルシエ監督の目に留まり、代表入りを果たした末にシドニーオリンピックへの道が開けたとお話しされました。

こうした経験を踏まえて平瀬さんは、夢や目標をしっかり持ち、それを目指す過程に苦しいことがあっても、正面から向き合って日々努力を続けることが大事だと児童にメッセージを伝えられました。

講演を聞いた児童からは、事後のアンケートで「努力すれば必ず夢は叶うという大切なことを学んだ」(2 年生)、「自分も努力を惜しまずに頑張りたい」(5 年生) など、夢や目標、努力の大切さを学んだと言う意見が多く挙げられました。また、「スポーツに興味はなかったけど、何か自分もスポーツをやってみようと思った」(2 年生) や、「障がい者も一緒にスポーツをして仲良くなる場が作れば良いと思った」(3 年生) など、スポーツやオリンピック・パラリンピックへの関心の高まりも見られました。

6 授業の様子



夢をもつ事や細かな目標設定をすること、夢や目標の実現に向けて努力を惜しまないことの大切さについてお話しをされた平瀬智行さん



実技では、6年生児童を対象とし、ゲーム性のあるウォーミングアップやボール操作の基本などを指導され、最後には平瀬さんも交えながらミニゲームも行いました。

平瀬さんは実技の間、「やってみよう！」「チャレンジ！チャレンジ！」「惜しい！もう少し！！」など積極的に児童に声をかけており、挑戦することの大切さについて実技を通して児童に伝えられました。